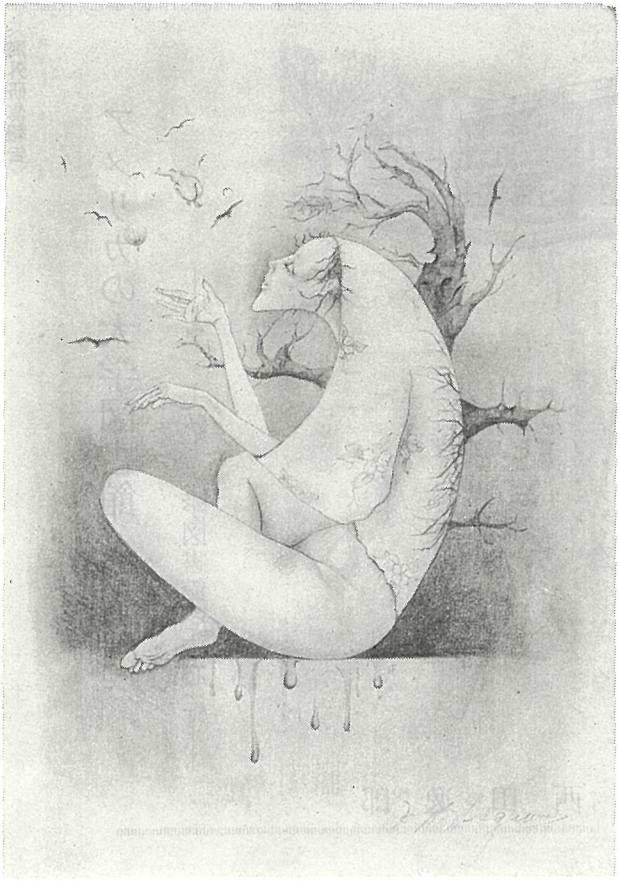

えと文

中澤克己

どうも夏の暑さで、肉体的にも精神的にもデッドな状態になってしまったようだ。従って、イマジネーションもはなはだ乏しい状態にある。苦労して描いた作品も大したことはなく、ともすればいつものパターンに陥ってしまう。この絵もその部類に入るかもしれない。

しかし、ある漠然としたイメージがここしばらく頭の中でくすぶり続けている。それは未知なもの、永遠なものへの憧憬とでも言うんだろうか、肉体、魂、精神、インド、存在、etc.とそれぞれが断片的に浮かんでくる。確かに、もう物質社会への執着に終止符を打ちたい。そして、なにか精神的な世界に希望を持ちたいと思っている。ぼくだけに限ったことではないだろう。我々は皆、ある精神的理想郷への憧憬を内に秘めているんじゃないか。

（大学文学部三年生）